

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.20

〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkocho@iwate-u.ac.jp

平成25年8月30日発行

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

下村博文 文部科学大臣が釜石サテライトを訪問しました

7月10日、下村博文文部科学大臣が岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライトを訪問し、被災地でボランティア活動を行っている岩手大学、岩手県立大学の学生らと意見交換を行いました。

岩手大学からは、宮古市と陸前高田市で活動している学生ボランティア団体「ANEW」と「もりもり☆岩手」の学生が参加し、それぞれの活動内容について報告を行いました。

意見交換の中で、下村大臣から「ボランティア活動が就職活動にどのような影響を与えていると思うか」という質問があり、これに対し藤井克己岩手大学長は、「学生の就職活動は長期化しており、これは大学教育の質保証という観点で問題になっているが、ボランティア活動については、岩手大学としては出来る限り奨励しており学生は確実に成長している。就職内定率には特に影響はなかったのではないかと説明。また、岩手大学の学生からは、「これから就職活動を始めるところだが、そもそも自主的に取り組むボランティア活動を就職活動でPRとして使っても良いのかという思いがある」という考えが述べられました。

最後に下村大臣から「ボランティアに対して被災地の大学が更に本格的に取り組んでもらえれば今後のモデルになると思っている。学生がボランティア活動することは就職活動にとってマイナスではなく、むしろ企業側から見て意欲的に取り組んでいるという評価に繋がっていくのではないかと。

また、コミュニケーションや人間関係の面でも学ぶことができる貴重な体験となっているのではないかと意見が述べられ、「国としては、こころのケアなども含めて、このような活動をできる限りバックアップしていきたいと思っている」との力強い言葉で締めくくられました。



懇談終了後、下村文部科学大臣を囲んでの記念写真

秋田県の高校生が釜石サテライトで体験学習を行いました

7月30日、秋田県立花輪高等学校（秋田県鹿角市）第1学年の生徒77名が学習合宿の一環として釜石サテライトを訪れました。

花輪高等学校の生徒は津波で被害を受けた大槌町役場を見学し、献花を行った後に釜石サテライトに到着。開講式では、三浦靖三陸水産研究センター長が歓迎の挨拶を述べるとともに、震災直後から岩手大学が取り組んでいる復興支援活動を説明しました。

続いて、釜石サテライト常駐の佐々木誠特任准教授（生活支援部門心のケア班）が、「心のケアについて考える」をテーマに、①支援者の集まる情報交換会、②仮設住宅に入居されている方々へのリラクゼーション研修、③支援者に対する支援活動について講演しました。

午後の部では、三浦靖三陸水産研究センター長が「食品凍結・解凍の『さいえんす』」をテーマに、過冷却の観察などの実習や凍結・解凍の基礎理論講義

を行いました。

過冷却の実験では、生徒が凍結試験庫から出したペットボトルに衝撃を与え、水が急速に凍結する過程を観察しました。

また、凍結・解凍の基礎理論の講義後、生徒達は班ごとに凍結したウニ、コンブ、ホヤ、カキを、流水解凍や自然解凍などの複数の方法を用い、解凍させました。

ホヤを触ったことのない生徒もおり、ナイフでホヤを切る際には、悲鳴も上がった班もありましたが、実験補助に入った農学部生や大学院生の指導により、順調に実験を行いました。なお、解凍後は、実習に参加した生徒さん方が試食し、楽しい（美味しい）実験となりました。

閉講式では、参加した生徒さん方からお礼の言葉があり、被災地の現状や復興について考えることが出来た非常に有意義な学習合宿となりました。



凍結試験庫から取り出したミネラルウォーターのペットボトルに衝撃を与え、水が急速に凍結する過程を観察しました。



凍結したウニ、ホヤ、コンブ、カキ



解凍したホヤの殻をむく高校生



久慈産のウニをむく高校生。上手く解凍できると「じゅええええ」と歓声が上がりました。

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、岩手県陸前高田市の津波被災地で農業振興に取り組む高収益型農畜産復興支援班の活動をご紹介します。

「がんちゃんの三陸野菜畑」発、沿岸の気候風土に適した新しい園芸作物栽培

岩手大学三陸復興推進機構 農林畜産復興推進部門 高収益型農畜産復興支援班 松嶋 卯月（農学部 准教授）

私たち園芸グループは東日本大震災で被災した三陸沿岸地域の農業振興をお手伝いするために、陸前高田市に見本・実証圃場「がんちゃんの三陸野菜畑」を開設しています。活動の目的は、農家の皆さんに被災した農地への施肥等の方法を広く紹介すること、また、三陸の気候風土の特長を生かした新ブランド野菜等の栽培方法を考案して地域ブランドとして根付かせることです。

災害から2年が経過し、私たちが見本・実証圃場を展開する陸前高田市でも田畑を復旧する土木工事もゆっくりですが進んできました。ところが、3度目の春に田植えしたイネの生長にはむらが見られます。津波被害が大きかった農地では、大量のがれきと土砂が田畑の土に混ざり込んでそのままの耕作は難しかったため、表層から数10cmの土壌を削り取ったといわれています。長年かけて育ててきた宝である「畑の土、田んぼの土」が失われてしまったので、まさに一から



シタケ廃菌床を畑に投入



やり直しです。そこで、高価な肥料や堆肥の量を減らす方法として、廃棄物処理に困っているシタケ廃菌床を有機質資材として畑に投入し評価試験を行っています。去年の試験結果では堆肥区と無施肥区の草丈の平均値に対して、菌床区、菌床および堆肥区ではその約1.5倍の草丈に育つなど効果が現れました。

また、現地における新ブランド化野菜の候補としては、手間がかからず栽培が容易なクッキングトマトや、沿岸の涼しい気候を生かした夏取りイチゴの栽培試験を行っています。クッキングトマトは、昨年度の栽培試験で約週一度の管理でも歩留まり良く収穫でき、オープンキャンパスで行った試食会でも皆さんに好評でした。そこで本年度は、一時期に集中しがちな収穫期を拡大し市場への供給期間を長期化するための栽培試験を行っています。

これらの活動は「がんちゃんの野菜畑」(<http://iwatedai-sanriku-hort.jp/>)というホームページで情報発信を行っていますので是非ご覧ください。今後は、クッキングトマトを使った岩手大ブランド商品などの開発等にも挑戦する予定です。



クッキングトマト試食会とアンケート調査

宮古エクステンションセンターだより

●ものづくり支援の活動について

三陸復興推進機構ものづくり産業復興推進部門サテライトは、コバルト合金をはじめとする特殊合金産業の基盤強化とクラスター化、及び産学官連携による技術の高度化、人材育成、事業の創出を図り、三陸沿岸地域のものづくり産業の復興支援を目的として、釜石・大槌地域産業育成センター内に設置されています。サテライトには、五軸マシニングセンターをはじめ、ワイヤ放電加工機、三次元測定機、CAD/CAMトレーニングPCなどの加工機及び計測器などが揃っており、研究員が常駐しています。

宮古地区には、コネクタ関連企業をはじめ多くのものづくり企業があり、様々な加工機を駆使して製品を生産しています。複雑な形状の加工には、五軸マシニングセンターが有効ですが、そのためにはCAD/CAMを十分に使いこなす必要があります。しかし、CAD/CAMの知識、加工の知識、そしてコンピューターの知識とノウハウが必要であるため、一朝一夕で使いこなすことは難しいことから、多くの企業は外注により部品を調達しています。

そのような悩みを持つ企業のニーズに応えるべく、宮古エクステンションセンターでは、ものづくり復興推進部門の研究員たちと協力し、五軸マシニングセンターの有用性を地域企業に浸透させるために、図面の3DCAD化や、さらにはCAMによる加工シミュ



五軸制御マシニングセンター



三次元測定機

レーション、先々には試作加工や共同研究までを視野に入れて産学連携による産業支援を行っていきます。

●宮古市産業支援センター（港湾振興室）について

宮古エクステンションセンターは宮古市産業支援センター内に設置されています。宮古市産業支援センターには、産業振興担当、食産業担当、港湾振興室があります。今回は港湾振興室を紹介いたします。

港湾振興室は、海洋レクリエーションの振興、出崎地区親水空間の活用、鉾ヶ崎地区の津波対策などを視点に宮古港の振興を目的に設置されています。4月には、客船につぼん丸、7月には、自衛隊護衛艦、まきなみ、すずなみが寄港しましたが、このような艦船の受け入れにかかわる業務や関連イベントなどの対応を行っています。

2015年は、宮古港開港400周年で様々な事業が計画されており、港湾振興担当の益々の活躍が期待されます。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。



客船 つぼん丸(4月2日 寄港)



護衛艦 まきなみ(左)とすずなみ(7月20、21日 寄港)

連絡先 宮古エクステンションセンター

T027-8501 岩手県宮古市新川町2-1
宮古市役所宮古市産業振興部 宮古市産業支援センター内
TEL:090-2886-8887 E-mail:miyako@iwate-u.ac.jp

Information

岩手生まれのクッキングトマトを広めよう!

野菜ソムリエコミュニティいわてとの共催で、クッキングトマトの講習会と試食会を右記のとおり開催します。



お問い合わせ先
申し込み先

開催日：9月7日(土) 10:00~14:30
会場：長部コミュニティセンター(陸前高田市気仙町牧田17)
対象：沿岸地区農業従事者 10名
参加費：無料
内容：岩手大学試験圃場見学・野菜収穫、調理・試食、クッキングトマト栽培に関する講演など
主催：野菜ソムリエコミュニティいわて、岩手大学三陸復興推進機構 農林畜産復興推進部門

野菜ソムリエコミュニティいわて 電話：080-3195-8408(千田)
岩手大学 電話：019-621-6183(松嶋)

編集後記

今年の夏は全国各地で猛暑と叫ばれましたが、盛岡も例年にはなく暑い日々が続きました。そのような暑い夏に今年も岩手の伝統夏祭り、第36回盛岡さんさ踊りが開催されました。太鼓と篠笛が奏でるリズムにあわせ、踊り手が優雅に舞うさんさ踊りのパレードに、岩手大学は教職員と学生、卒業生の189名で参加し、見事最優秀賞に輝きました。沿道からご声援を送って下さった皆様にお礼申し上げます。